第４号　2018年１月

群大病院だより

GUNDAI NEWSLETTER

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町三丁目39-15／TEL 027-220-7111㈹／ホームページ http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/

群馬大学の良さを力に 新しい群大病院スタートの年へ

病院長　田村　遵一

2018年最初の群大病院だより発行にあたり、ご挨拶を申し上げます。本年が皆様にとってよい年になりますよう、心よりご祈念申し上げます。

昨年は、改革改善の一年でした。今年もより一層の医療の安全と信頼回復に努めて参ります。

皆さまには一層のご意見、ご鞭撻をたまわりますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

改革を進め、新たなスタートを切る年に

医療安全に関して理念と現実の両面から、職員たちが一丸となって改善を図っています。現場での努力もあり、群大関係者と副知事、県医師会会長ほかで構成する「群大病院の再生を促進する協議会」や、外部の監査委員会からも「改革の取り組みは着実に迅速に進んでいる」とのご評価をいただきました。

このようなことを踏まえ、今年は本当の意味で新たなスタートを切る年。群馬大学の特徴である「まとまりの良さ」を生かしてジャンプできる年にしたいと思います。

「医療の質・安全学講座」「先端医療開発センター」「地域医療研究・教育センター」が改革の３本柱

私たちは、病院改革の３本の柱として次の３つを目標にしています。

一つ目の「医療の質・安全学講座」に関しては、質の向上・強化を目的に、昨年11月１日付けで聖路加国際病院の副院長を務めた小松康宏教授をお迎えしました。医療安全研修や国際的な水準の安全教育を推進していきます。また、若いうちから医療安全を徹底的に身につけられるよう、医療系の学生に対して実益性の高い安全教育のプログラムを構築していきます。連携のあるWHOからも「東アジアの基準となる医療安全教育を作りたい」と言われています。安全教育の規範を作るつもりで取り組んでいきます。医療安全は、医師だけではできるものではなく、チームで取り組むことが欠かせません。医学と保健学の両方の専門家を有する群馬大学から、質の高い医療安全を実現し、群馬県を日本一、世界一の医療安全地域にしたいと願っています。

二つ目の「先端医療開発センター」は、すでに昨年４月１日に稼働を始めました。新しい技術や難易度の高い手術、新薬や保険適応外の薬の採用等を支援する部署で、先端医療を必要とする患者さんの一層の安全確保のための調整役を務めています。

三つ目の「地域医療研究・教育センター」は、群馬県が事業の一部を群馬大学に委託する形で、昨年４月１日に設置準備室がスタートしました。群馬県、県医師会等と群馬大学が連携し、医師不足状況の把握や分析、医師不足病院の支援、医師のキャリア形成支援、地域医療関係者との協力関係の構築などを図り、群馬県全体の医療レベルの向上に貢献します。

病院ボランティアさんを通して、皆さまの声をかたちに

群大病院は地域に開かれた病院を目指し、患者さんの声に真摯に向き合っています。しかし、すべての患者さんの声が届いているわけではありません。この「声」を拾い上げてくださるのが病院ボランティアの方々です。日々の活動を通して気づいたことをフィードバックしていただくことで、改善に努めていきます。きちんと実績を積み重ねて、患者さんから「よくなった」という声が出てきたら有難いですね。医療安全及び先端医療に関して、まずは日本での最先端を目指し、力を尽くして参ります。

もくじ

■新しい群大病院のこれから …… 1ページ
■大規模災害発生時の多数傷病者受入訓練の実施 …… 2ページ
■新任のご挨拶 …… 3ページ
■重粒子線がん治療施設見学会 …… 3ページ
■病院探検！「検査部」 …… 3ページ
■患者さんの声 …… 4ページ
■「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017ぐんま」に参加 …… 4ページ

大規模災害発生時の多数傷病者受入訓練を実施しました!!

「災害拠点病院」を、ご存知ですか？ 平成７年に発生した阪神淡路大震災で浮き彫りとなった日本の災害医療の問題点の１つとして、「災害医療を中心的に担う病院が無い」ことが指摘されました。それに対し、平成８年に当時の厚生省の発令によって定められた「災害時における初期救急医療体制の充実強化を図るための医療機関」が災害拠点病院です。

正面入口でのトリアージの様子

災害拠点病院は、平時には一般診療を行っていますが、災害発生時には、災害による重篤患者の救命医療等の高度の診療機能を維持し、被災地からの患者受入や広域医療搬送（重傷患者を被災地外の災害拠点病院等へ搬送し救命すること）に関わる対応等を行うことをその役割としています。平成 29 年４月１日現在、全国で 723 病院が災害拠点病院に指定されています。

群大病院は、平成 24 年 10 月に災害拠点病院に指定されました。災害拠点病院の指定要件には「被災した状況を想定した研修及び訓練を実施すること」が含まれています。当院では災害マニュアルを整備し、それに則り、実際に災害が生じ多数の傷病者が当院へ搬送された際に、しっかり対応できるよう、毎年災害訓練（主に多数傷病者の受入訓練）を行っています。

準救急エリア（トリアージ黄色エリア）での治療の様子

平成 29 年 12 月３日（日）に、第５回の災害訓練を行いました。医師､看護師やその他の医療スタッフ、事務職員、ボランティアの方々や学生等、総勢 270 名が参加しました（傷病者役を含む）。「同日午前８時に近隣で震度７の大地震が発生、地震に伴い当院の電子カルテの一部が使えない。このような状況で多数の傷病者を当院で受け入れる」という想定で訓練を開始しました。訓練参加者は自身がどのような役割なのかを訓練当日のその場で確認し、マニュアルに則り各自受入の準備を行い、次々と搬送される傷病者を病院玄関で重症度に応じて振り分け（トリアージ）、診療を行っていきました（傷病者は計 78 名でした）。「いつ、どのような傷病者が何名運ばれてくるか」という情報も参加者には全く知らされていない状況でしたので、参加者はまさに本番さながらの臨場感で訓練を行うことができました。訓練では上手く進んだ点もあれば、更なる検討が必要な点も明らかになりました。訓練は時間で終了できますが、実際の災害ではいつ終わるとも知れない対応が求められます。今回の結果を本院災害マニュアルに反映させ、いざという時にしっかりと対応できるよう、全職員の気持ちを一つにして準備をしていきたいと考えております。

（救命・総合医療センター長）

新任のご挨拶

医療の質・安全管理部長　教授　**小松　康宏**

みなさん、こんにちは。小松と申します。11月に、20年間勤務した東京の聖路加国際病院から群馬大学に赴任しました。前病院では、副院長として医療の質・安全部門を統括するとともに、腎臓内科部長として腎臓内科・透析の診療も行っていました。これからは、大学院医学系研究科医療の質・安全学講座の教授として教育・研究を進めるとともに、群大病院の「医療の質·安全」を高めていくのが私の役割です。本院が、患者・家族の皆様が安心してかかれる、そして病院職員も安心して、誇りを持って働くことができる、名実ともに日本で最も信頼できる病院となるようスタッフ一同がんばります。よろしくお願いいたします。

重粒子線がん治療施設見学会を開催しました！

11月3日（金・祝）、一般の方を対象に見学会を開催し、約800名もの方にお越しいただきました！

今回は家族で楽しめる見学会にしたいと、ぐんまちゃんとの特設記念撮影会場を設置し、小中学生対象の「重粒子線クイズラリー」も開催！各機器の説明にも熱が入り、説明会場も熱気ムンムン！ アンケートには「よく理解できた！ありがとう！」や「スタッフの対応が良かった！」という感想も多くいただきました。

来年度も皆様のご来場を心よりお待ちしております。

ぐんまちゃんとの記念撮影会場の様子

シンクロトロン加速器の説明の様子

病院探検！「検査部」

『より安全で信頼される臨床検査サービスの提供を目指して』

検査部は、採液室で採取した血液や尿から貧血検査、腎機能検査、肝機能検査、脂質や腫瘍マーカーなどの検体検査を行っています。また、患者さんと直接接して心電図、心臓超音波（心エコー）、呼吸機能や脳波などの生理機能検査を行っています。臨床検査専門医と臨床検査技師とが協力して品質と精度の管理を行い、患者さんの診療のために出来るだけ早く、正確な検査結果を提供するよう心掛け、そして検査方法や業務の運用など様々なことに対して、日々改善に努めております。お気づきの点やご要望等ございましたらお寄せください。

群大病院の検査の質・精度を高めていきます！

国際標準化機構が定めた
国際規格ISO 15189を取得！

患者さんの声

車椅子から自動車へ乗降のしやすい幅広駐車場を増やしてほしい。

　このたびは、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。
　第１駐車場の幅広駐車場につきまして、ご利用いただきやすいよう３カ所から15カ所に拡張いたしました。ご報告させていただきます。　医事課長

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017ぐんま」に参加しました！

　平成29年10月７日（土）・８日（日）、ALSOKぐんま総合スポーツセンターふれあいグラウンドにて開催された、がん患者さんやご家族を支援するチャリティ活動「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017ぐんま」に参加しました。開催当日は職員ら267名が参加し、本院プレイベントにて患者さんと一緒に作成したサバイバーズフラッグを掲げ、交代しながら夜通し歩き、24時間のリレーをつなげる事が出来ました。また、会場では本院看護師による「癒やしのハンドマッサージ」を実施し、多数の来場者を癒やしました。

本院からの参加者で記念撮影！

癒やしのハンドマッサージブースの様子

群馬大学医学部附属病院「群大病院だより」
第４号　2018年１月
編　集 ■ 群大病院だより編集委員会
発　行 ■ 群馬大学医学部附属病院
発行日 ■ 2018年１月26日
ホームページ ■ http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/

病院の理念	大学病院としての使命を全うし、国民の健康と生活を守る。
基本方針	安全・納得・信頼の医療を提供する。 次代を担う人間性豊かな医療人を育成する。 明日の医療を創造し、国際社会に貢献する。 医療連携を推進し、地域医療再生の拠点となる。